

【理念】

医療と福祉の連携をとり、介護員、相談員、ケアマネジャー、医師、看護師、栄養士、歯科衛生士それぞれの専門性、独自性、応用力を活かし、一貫したケアを行い入居者様が安全かつ安楽な生活を送ることが出来るように努める。

【目標】

- ① 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
- ② 皮膚トラブルの予防に努める。発生時は適切な処置を実施し早期治癒を目指す
- ③ 感染症の予防と拡大防止
- ④ 看取り介護の質の向上
- ⑤ 接遇・礼儀の徹底に努める
- ⑥ 経費削減に努める

【実践報告】

- (1) 異常の早期発見に努め、早期治療と看護による施設内での体調改善を図る
 - ・ロング入居者様は週1回のバイタルサイン測定（以下VS測定）を新型肺炎の対応策として毎日検温とした。SS利用者様の対応はこれまで通りである。退院後や特変時は随時VS測定を行い、異常の早期発見、対応に努めた。
 - (2) 皮膚トラブルの予防と改善に努める
 - ・終末期における褥瘡予防と褥瘡治癒を目指し、介護員と連携し改善に努めた。
 - (3) 感染症の予防と拡大防止
 - ・令和3年5月9日介護員の新型コロナ肺炎の発症を境に入居者21名、職員2名の計23名のクラスターとなった。入居者全員のPCR検査の結果、4月21日に退院した入居者からの感染拡大と判明した。当時は医療機関への入院が困難であり感染者は施設で対応するしかなく、そのため適切な医療が受けられず施設で亡くなる現状があった。高齢者施設の多くは医療機関での治療とは違い、医療従事者が嘱託医と看護師のみであり、限られた医療機器、薬剤しかなく、また治療方針も周知、明確でない状態であった。そのような状況下で何とか対応出来たのは専門家チームや保健所各機関の指導を受けられたこと、また近隣医療機関との病診連携を図ったことが大きいと感じる。厚労省からの治療指針を基に治療が適正かをコロナ対応病院に相談、確認出来たことは心強かった。医療従事者ではない介護職員を中心に多種職が一丸となって立ち向かい、感染拡大防止と重症化しないよう全力を尽くした結果、死亡者を出さないという結果に結びついたと考える。しかしアフターコロナと思われる症状での入院中に2名の入居者が亡くなっている。
- 現在は第7波を迎えようとしており終息は見えない。このクラスター経験を基に、より危機管理を各自徹底し施設内感染を防止してゆきたい。

(4) 看取り介護の質の向上

- ・令和3年度は26名の退居のうち17名が看取り介護支援での看取りとなった。多種職との連携を図り、ご家族様による看取りケースが多かった。

(5) 接遇・礼儀の徹底に努める

- ・職員による接遇チェックを定期的におこなっている。やや改善傾向と思われる。今後もお互い注意し合える職場環境を目指してゆく

(6) 経費削減に努める

- ・新型肺炎の拡大に伴い、マスクや消毒剤の経費が増大している。また入手も困難な状況となっており、長引く感染対応に向けて更なる節約に努めたい。

令和3年度 病院受診者数と受診内容

	受診者数 (入院者数)	ロング入居者様の受診内容							ショートステイ利用者様の受診内容						救急搬送
		発熱	心不全 心疾患	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	発熱	転倒 骨折	尿路感染 尿路関係	定期受診	その他	合計	
R03 4月	9 (1+0)	1	1			3	2	7		2				2	
5月	10 (4+1)	1				4	4	9					1	1	1
6月	22 (8+0)	3		2		6	9	20					2	2	1
7月	15 (3+0)	2	1			6	3	12				1	2	3	
8月	16 (1+0)	1	1			3	9	14				1	1	2	
9月	20 (3+1)			2		6	6	14				3	3	6	
10月	13 (1+1)			2		3	2	7				3	3	6	
11月	19 (2+0)	1			1	4	5	11	1		1	3	3	8	1
12月	21 (1+1)	1		2		10	2	15	3	1		1	1	6	
R04 1月	21 (1+0)					4	2	6	2		1	12		15	
2月	13 (2+0)	1	1	1	1	5	1	10				1	2	3	
3月	21 (5+0)	1	1	2	2	6	3	15				3	3	6	1
合計	200 (32+4)	12	5	11	4	60	48	140	6	3	2	28	21	60	4

○印はショートステイ利用者の救急搬送

令和3年度 受診動向のまとめ

特養ホーム 医務

令和3年度におけるショートステイ利用者様（以下SS利用者様）、ロング入居者様（以下入居者様）の受診動向の確認を行いました（別紙資料1をご参照ください）。受診者数、受診内容を確認することで傾向と対策を見出す手がかりとし、令和4年度における受診を減少できればと考えます

SS利用者様の受診総数は60件で昨年度とほぼ同数でした。その内8割が定期受診と入居時の健康診断のための受診でした。入院件数は4件でした。4件については新型コロナウイルス肺炎感染、心不全の増悪、脳梗塞、内服調整入院という内容でした。

引き続き新型コロナウイルス肺炎の感染予防対策として受診の最小化、ご家族対応による受診を依頼し、感染予防や感染拡大に留意してゆきたいと思えます。また、ご家族や主治医、ケアマネ等各種関連機関との連携を図り、安全かつ最小限とする受診動向が図れるよう努めてゆきます

ロング入居者様の受診総数は21件多く140件でした。内容は同一入居者様の定期受診が半数近くを占め、ついで新型コロナウイルス肺炎感染に関連した受診（入院を含む）でした。発熱外来受診や転倒骨折による受診も昨年度より増加しています

感染者21名のクラスターの発生に伴い、長期間の隔離対応の中、閉鎖空間での不活発とマンパワー不足の影響もあり感染者以外の入居者様も体調を崩され入院となるケースもありました。感染拡大がなければ受診総数は少なかったと思えます

再び感染拡大とならぬよう予防意識を持ち、自己の健康管理や感染対策の徹底、環境調整等を行ってゆく必要があると考えます

令和3年度の退居者数

*退居者総数	26名
病院死亡者数	4名（重複あり）
ターミナルケア加算 死亡者数	17名（重複あり）
ターミナルケア加算外 死亡者数	1名
転院者数（入院後、施設に戻れず転院）	5名